

☆二〇二五年、「非暴力」という選択

・二つの戦争（ロシア・ウクライナ戦争、イスラエル・ハマス戦争）の収束の道が見えないまま迎えた世界の新年。そして戦争準備へ傾斜する日本の新年。平和憲法の視点から世界と日本、そして私たちがとるべき選択を考えてみます。

★世界の選択

◆「戦争は政治の手段である」(*)と言った人がいました。いま戦争を遂行している政治家達はこの考えを歓迎し、戦争を正当化しています。とんでもないことです。
(*) ドイツの思想家クラウゼヴィッツ。「戦争論」(1832年)

◆政治の目的は、世界平和の実現、そしてその国の国民の幸福と安全を実現することではありませんか？戦争は人を殺し、生活インフラを破壊することです。から、この目的のために戦争を手段として選択することは根本的な間違いです。

◆これ以上人を殺さない。そのためには先ず停戦です。そして政治の手段として以後戦争することをきっぱりと捨てる事が世界のいま最優先の選択です。

★日本の選択

◆日本の姿はどうでしょう。政治家も戦争を政治の手段と考えて戦争準備に余念がありません。来年度の軍事費予算は8・5兆円で過去最大です。

◆人を見るにはその人のお金の使い方を見ればわかると言われます。国も同じです。そのことが分かるのが沖繩辺野古の基地建設です。完成の見通しもないのに、私たちの税金をジャブジャブ使っています。

◆日本は先の戦争の過ちを反省し憲法9条で戦争を放棄しました。その原点に帰って、戦争準備をきっぱりとやめ、そのお金を貧困解決などに向けるべきです。その手本を世界に示そうではありませんか。

★そして私たちの選択―「非暴力」

◆私たちは、この世のあらゆる悪に対して「非暴力」で戦おうではありませんか。米国の黒人牧師M・L・キングは「目的が正しければ暴力も許されるか」という問いに悩んだすえ、きっぱりと「NO」という結論に達しました。

◆暴力の頂点が戦争です。それにきっぱりNOを表明し非暴力で戦いましょう。非暴力は無力ではありません。非暴力で悪に抵抗し戦うのです。

二〇二五年一月十二日(日) 護憲平和行進 (通算695回目)
浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中央区紺屋町三〇一―一五
★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合



*今年(2025年)6月8日、浜松市憲法を守る会の平和行進は700回の節目を迎えます。みなさんこの日の行進に参加し、歴史にあなたの足跡を残しませんか。

日本国憲法 前文より

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から根絶しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。除くわれらに生存する権利を有することなく、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。